

令和6年度 桜小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

【自ら考え、共に学び、心豊かにたくましく生きる児童を育成する。】

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 たくましい子（たくましい体力と活力） | 3 働く子（勤労意欲と実行力） |
| 2 考える子（個性と創造性の伸長） | 4 思いやりのある子（豊かな心情と協調心） |

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

人間尊重と共生・協同を学校経営の基盤とし、桜小学校の歴史と伝統を継承し、教職員相互の信頼と協調のもとで、児童一人一人のもつよさや可能性を認め伸ばし、未来を拓く、たくましい人間の育成に努める。
～「一人一人のよりよい未来のために、子どもたちの今に、全力でかかわる『チーム桜』」～

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）深い児童理解のもと、豊かな心を醸成する教育活動を積極的に推進するとともに、心豊かでたくましく生きる児童を育成する学校づくりに努める。
- （2）一人一人の児童の個性・能力を把握し、基礎・基本の確実な定着及び「分かる授業」の展開を図るとともに、確かな学力の向上を目指す。
- （3）児童の健やかな成長のため、児童が本来もっている力を発揮できるように、一人一人に寄り添いながら温かくきめ細かな指導を行う特別支援教育の推進に努める。
- （4）教職員としての使命と責務を自覚し、専門職として日々研鑽に努め、個々の指導力及び資質の向上を図るとともに、校内業務の適正化（特に、効率化）を推進することにより、教職員一人一人が心身ともに健康な状態で児童と向き合う時間を十分に確保し、活力ある学校づくりに努める。
- （5）学校・家庭・地域社会との連携を密にして、地域の教育力を活用しながら、地域とともにある学校づくりと小中一貫教育の推進に努める。

〔陽西地域学校園教育ビジョン〕

自己の「よさ」を活かすとともに他者を尊重し、粘り強く頑張る子どもの育成
～協働的な学びを通して、自己肯定感をはぐくむ教育活動の推進～

4 教育課程編成の方針

- （1）心豊かでたくましく生きる児童を育成するために、国・県・市の基本方針、児童及び地域の実態を考慮した特色ある教育課程を編成する。
- （2）児童一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実を図り、交流及び共同学習の推進を目指した教育課程を編成する。
- （3）「地域とともにある学校づくり」を推進するために、地域の教育力を生かし、交流・体験活動の充実を目指した教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- （1）学校運営
○ 児童一人一人のもつよさや可能性を認め伸ばし、未来を拓くたくましい人間力の育成
- （2）学習指導
○ 思いをもとに、イメージを膨らませ、自分らしく表現する児童の育成
～ 観たい 描きたい 創りたい をふくらます授業作り ～
- （3）児童生徒指導
○ なりたい自分を見つけ、友だちと協働して、よりよい生活を創っていける児童の育成
～ 自己肯定感を高める積極的児童指導の構築 ～
- （4）健康（体力・保健・食・安全）
○ 生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成
～ 主体的な判断力を身に付ける健康・安全教育の充実 ～

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価 数値指標に対する肯定的評価の割合															
				上段 令和6年度 下段 令和5年度 色＝評価対象 青＝達成 橙＝未達成 斜線＝当該項目の評価なし															
1-(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は, 学習課題を解決するために, 友達と話し合ったり, 必要な情報を集めたりしながら, じっくり考え, 粘り強く学習に取り組んでいる。」 ⇒教職員肯定的回答 90%以上	①「さくらの学び(つかむ・学び合う・まとめる・ふりかえる)」のサイクルの実践を通して, 基礎・基本の定着を図り自ら学ぶ力を育てる。 ※学習がんばり週間の実施 ※本校で作成した「家庭学習の手引き」の効果的活用 ※朝の学習を実施 ② 友達と話し合う場面を設けるなどして, それを参考にして主体的に学習に取り組めるようにする。 ③ 1人1台端末を活用し, 必要な情報を集めたり, 友達と考えを共有したりできるようにする。	B	【達成状況】目標を達成 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R6</td><td>92.3</td><td>93.1</td><td>84.7</td><td></td></tr> <tr> <td>R5</td><td>89.0</td><td>96.2</td><td>90.4</td><td></td></tr> </tbody> </table> 今年度も教職員の肯定的回答割合が, 昨年度に引き続き 90%を超え, 数値目標を達成した。 【次年度の方針】 引き続き, つかむ・学び合う・まとめる・ふりかえると言った, 「さくらの学び」サイクルの実践を通して, 基礎・基本が確実に児童に身に付くようにする。さらに, 「まとめる」「ふりかえる」に力を入れることで, 児童の達成感を高める。これまでの実践に加え, 学年だよりやホームページで, 児童の学習の様子や成果を発信していく。		児童	教職員	保護者	地域	R6	92.3	93.1	84.7		R5	89.0	96.2	90.4	
	児童	教職員	保護者	地域															
R6	92.3	93.1	84.7																
R5	89.0	96.2	90.4																
1-(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は, 思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は, 誰に対しても, 思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒教職員肯定的回答 90%以上	①道徳科の授業や交流活動, 集団での活動を通して, 自分を大切にすること, 他人を思いやる心, 他者との共生を図る心を育成する ②縦割り班を中心とした活動を取り入れ, 自他を尊重する心を育てる。 ③「Q-U」を生かした学級経営を行う。 ④ほめほめカードの活用を通し, 児童の自尊心を育てる。	B	【達成状況】目標を達成 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R6</td><td>87.2</td><td>100.0</td><td>94.4</td><td>100.0</td></tr> <tr> <td>R5</td><td>92.9</td><td>100.0</td><td>95.0</td><td>100.0</td></tr> </tbody> </table> 昨年度と同等であり, 100%という高い肯定的回答割合であった。 【次年度の方針】 今後も思いやりをもって友達に接する児童を育成するために, 「Q-U」を生かした学級経営を行ったり, 長年活用しているほめほめカードのリニューアルを図ったりしながら, さらに児童の自尊心を育てていく。		児童	教職員	保護者	地域	R6	87.2	100.0	94.4	100.0	R5	92.9	100.0	95.0	100.0
	児童	教職員	保護者	地域															
R6	87.2	100.0	94.4	100.0															
R5	92.9	100.0	95.0	100.0															
	A3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は, 夢や目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	①自尊感情を育み, 個性を十分に発揮させるために, 児童一人一人のよさを認め励ます教育の充実を図る。 ・褒めて伸ばす教育の推進 ・自己の成長を振り返る場の設定 ・児童相互に認め合う場の設定 ②日々の生活の中で達成感や成就感を味わうことができるよう, 個に応じたねらいや活動の設定を工夫する。 ・挑戦意欲を喚起する課題の設定 ・競い合い高め合う望ましい学級集団づくりの推進 ③体育科の検定など, 挑戦意欲を喚起する仕掛けを学校や学級で設け, 達成感を味わわせるようにし, 自尊感情を育む。	B	【達成状況】目標を達成 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R6</td><td>89.0</td><td>93.1</td><td>82.1</td><td></td></tr> <tr> <td>R5</td><td>91.8</td><td>96.2</td><td>82.4</td><td></td></tr> </tbody> </table> 今年度も数値目標を達成した。また, 肯定的回答が 90%を超える高い割合であった。 【次年度の方針】 目標を達成しているので, このまま継続していく。また, 学習活動において達成感や成就感を味わうことができるよう自己肯定感を高める活動等を意図的に設定する。		児童	教職員	保護者	地域	R6	89.0	93.1	82.1		R5	91.8	96.2	82.4	
	児童	教職員	保護者	地域															
R6	89.0	93.1	82.1																
R5	91.8	96.2	82.4																

1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答 85%以上	①自らの自分の健康に関心を持ち、健康な生活を送ろうとする態度を養う。 ・体育の授業や休み時間などに児童が自ら進んで体を動かそうとする意識の育成を図る。 ・感染症予防を目指して児童が自ら行動できるように指導する。 ・食育だよりや給食時の声掛けなどで、食の大切さを啓発していく。 ・保健だよりで健康の大切さを啓発していく。 ②安全な登下校や交通安全について発達の段階に応じ繰り返し指導する。 ③避難訓練を実施して児童の危機管理意識を高める。 ・災害や不審者を想定した避難訓練を実施し、児童自らが危険を予測し回避できる能力の育成を図る。 ④校舎外の安全な生活(遊具の安全な使い方等)について、教科・学級活動の時間で継続して指導する。 ⑤西生涯学習センターや桜コミセンと連携しながら危機管理マニュアルの見直しを図る。	B	【達成状況】目標を達成 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>93.0</td><td>96.6</td><td>88.4</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R5</td><td>92.2</td><td>100.0</td><td>89.5</td><td>100.0</td></tr></table> 教職員・保護者の肯定的回答割合が、今年度の数値目標を達成した。 【次年度の方針】 引き続き、安全な登下校や交通安全・校内安全について発達の段階に応じ、繰り返し指導する。また、遊具の使い方など、安全な生活の仕方について、にこにこタイムや学級活動等の時間を活用して、継続的に指導を行う。		児童	教職員	保護者	地域	R6	93.0	96.6	88.4	100.0	R5	92.2	100.0	89.5	100.0
		児童		教職員	保護者	地域													
R6	93.0	96.6	88.4	100.0															
R5	92.2	100.0	89.5	100.0															
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、互いの良さを生かしながら、進んで意見を发表或し、協力したりして、集団での課題を解決している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	①望ましい勤労観・職業観の形成を図るために「宮・未来キャリア教育」の充実を図る。 ・年間指導計画に基づいた意図的・計画的な指導の展開 ・キャリア形成に係る自己評価と記録蓄積の工夫 ②地域各団体主催の行事等に関する情報を積極的に提供し、地域活動への児童の参加促進を図る。 ・各団体との連携の強化による地域行事情報の収集 ・ホームページ等を活用した情報の積極的な発信 ③キャリアパスポートを活用し、以前の自分と比較させ、成長している点を実感できるような場の設定を図る。 ④ほめほめ賞や清掃活動・縦割り班活動の評価のフィードバックにより、一人一人が自分のよさに気付けるようにする。	B	【達成状況】目標を達成 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>90.8</td><td>100.0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td>90.2</td><td>100.0</td><td></td><td></td></tr></table> 今年度の数値目標を達成した。また、肯定的回答が 90%を超える高い割合であった。 【次年度の方針】 今年度もほめほめ賞や友達のよさを伝え合う活動が効果的だったので、次年度も継続し、互いの個性を認め合う雰囲気作りに努める。また、自分の良さを実感できるような体験等を多く取り入れていく。		児童	教職員	保護者	地域	R6	90.8	100.0			R5	90.2	100.0		
	児童	教職員		保護者	地域														
R6	90.8	100.0																	
R5	90.2	100.0																	

2ー(1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A 6 児童は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答85%以上	①英語によるやりとりを中心とした授業実践の推進 ・教材研究の工夫 ・ALTとの連携の工夫 ・学習形態の工夫 ②外国語活動に向けた環境整備の推進 ・教材等、備品の管理の工夫 ・校内掲示の工夫 ③児童が目的意識をもって英語で話したいと思えるような教材の工夫をする。 ④これまでの実践に加え、1人1台端末を活用する。	A	【達成状況】 目標を未達成 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>79.1</td><td>96.6</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td>78.8</td><td>88.5</td><td></td><td></td></tr></table> 今年度は、教職員の肯定的回答割合の数値目標は大きく上回った。しかし、児童の肯定的回答割合は昨年度と同等であったが、数値目標には届かなかった。 【次年度の方針】 児童が目的意識をもち英語で話したいと思えるような教材や展開を工夫する。また、学年の実態に合わせた指導の工夫について、ALTとの綿密な打ち合わせを継続していく。		児童	教職員	保護者	地域	R6	79.1	96.6			R5	78.8	88.5		
		児童		教職員	保護者	地域													
R6	79.1	96.6																	
R5	78.8	88.5																	
A 7 児童は、宇都宮の良さを 知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答80%以上	①児童が郷土宇都宮に対する理解を深められるよう、発達の段階に応じて郷土に関する学習を推進する。 ・主に社会科、総合的な学習の時間（宇都宮学）、道徳科と関連付け、ICT機器を用いた調べ学習を充実させ、積極的に保護者に情報を発信する。 ・特別活動（学校行事等）における体験的な学習の場の設定をする。 ・食育（地産地消）を通じた地域への理解を指導する。 ・トマト給食教材等の積極的な活用を行う。 ②校外学習等で、宇都宮の良さに触れる機会を設定する。	B	【達成状況】 目標を達成 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>81.0</td><td>93.1</td><td>75.8</td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td>83.1</td><td>92.3</td><td>71.3</td><td></td></tr></table> 今年度の数値目標を達成した。教職員の肯定的回答の数値目標は大きく上回ったが、児童の肯定的回答と教職員の肯定的回答に差が見られた。 【次年度の方針】 国語科、社会科、総合的な学習の時間（宇都宮学）、道徳科、食育と関連付け、ICT機器を用いた調べ学習を充実させ、積極的に保護者に情報を発信する。また、校外学習等で、宇都宮の良さに触れる機会を設定する。		児童	教職員	保護者	地域	R6	81.0	93.1	75.8		R5	83.1	92.3	71.3		
	児童		教職員	保護者	地域														
R6	81.0	93.1	75.8																
R5	83.1	92.3	71.3																
2ー(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答85%以上	①情報活用能力の育成を図るために、体系的な情報教育を推進する。 ・意図的・計画的な「情報モラル教育」の実践 ・授業におけるICT機器の効果的な活用 ・プログラミング教育の実践 ②図書資料を有効に活用した学びを充実させるために、学校図書館の整備を推進する。 ・学習・情報センターとしての図書館の利用指導の充実 ・学習ニーズの把握に基づいた関連図書情報の提供 ・市立図書館と連携した授業実践 ③これまでの実践に加え、1人1台端末を活用した課題を積極的に提示し、学びの意欲喚起や家庭学習の定着等を目指す。	B	【達成状況】 目標を達成 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>86.4</td><td>100.0</td><td>83.8</td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td>89.0</td><td>100.0</td><td>85.7</td><td></td></tr></table> 児童・教職員の肯定的回答割合がともに85%以上であり、目標達成したが、児童の肯定的回答と教職員の肯定的回に差が見られた。 【次年度の方針】 図書資料を活用した学びが充実している。また、タブレット端末をはじめとしたICT機器の活用によって学びを深めたり意見を交流したりすることができた。次年度は、情報モラル教育の充実を図りながら、引き続き情報教育を推進する。また、図書だより等で活用状況を周知していく。		児童	教職員	保護者	地域	R6	86.4	100.0	83.8		R5	89.0	100.0	85.7	
	児童	教職員		保護者	地域														
R6	86.4	100.0	83.8																
R5	89.0	100.0	85.7																

2ー(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、持続可能な社会について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	①教職員が「持続可能な開発のための教育」(ESD)について理解を深め、児童の学習内容に関連付け、日々の生活の中で実施できるように指導を推進する。 ②「持続可能な開発のための教育(ESD)」を推進するために、新たなカリキュラムの開発・研究に努める。 ・社会科, 生活科, 学活, 総合的な学習の時間における活動の見直しを行う。 ③児童の実態に応じた具体的な活動内容を検討する。	A <
------------------------------------	--	--	--

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、不登校を生まないよう、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上	①学年・学級経営計画に基づいた意図的・計画的な指導を通して、学級活動の充実を図り、明るく活力に満ちた学級風土づくりを推進する。 ・教育相談・Q-U 検査の効果的な活用 ・教師と児童の協働・共遊の推進 ②児童がともに認め励まし合う学級づくりを行っていく。また、教職員間での情報共有を行い、組織的・計画的支援に努める。 ③児童指導対策会議や日々の様子の記録等を活用した情報共有を推進し、共通理解に基づいた組織的計画的な支援を推進する。 ④別室登校支援等、児童の実態に応じた支援策の工夫を図る。	【達成状況】 目標を達成 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>96.0</td><td>100.0</td><td>92.1</td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td>97.3</td><td>100.0</td><td>94.1</td><td></td></tr></table> 児童・保護者の肯定的回答が、昨年度に引き続き 90%を超え、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 欠席している児童への連絡や家庭訪問などを行う。また、保護者対応に関しては、窓口を担当だけにせず、引き続きチームで対応していく。		児童	教職員	保護者	地域	R6	96.0	100.0	92.1		R5	97.3	100.0	94.1	
	児童	教職員	保護者	地域														
R6	96.0	100.0	92.1															
R5	97.3	100.0	94.1															
3ー(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活があり、明るいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、児童の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、児童生徒が明るいきいきと学校生活を送れるようにしている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上	①「認め、励まし、支え合う」学年学級経営の充実に取り組む。 ②全職員が共通理解・連携のもと児童指導にあたり、自己存在感のある学校づくりに取り組む。 ③授業や学校行事で、児童が主体的に活動できる場を意図的に設定し、達成感をもたせ、意欲的に行動できるようにする。	【達成状況】 目標を達成 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>96.0</td><td>100.0</td><td>91.4</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R5</td><td>98.0</td><td>100.0</td><td>94.2</td><td>100.0</td></tr></table> 児童・保護者の肯定的回答が、昨年度に引き続き 90%を超え、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 児童会活動や学校行事などにおいて児童が主体的に活動できるよう計画を工夫し、実施する。		児童	教職員	保護者	地域	R6	96.0	100.0	91.4	100.0	R5	98.0	100.0	94.2	100.0
	児童	教職員	保護者	地域														
R6	96.0	100.0	91.4	100.0														
R5	98.0	100.0	94.2	100.0														
3ー(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化																		
4ー(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	①特別支援学級との連携を図る。 ②「さくらの学び」(つかむ・学び合う・まとめる・ふりかえる)を活用した学びのスタイルの確立と活用に努める。 ③学力テストやアンケート結果の分析と効果的な活用を行う。 ④少人数指導を通してのきめ細やかな指導に努める。 ⑤校内研修を行い、全教員で学び合う機会をもつ。 ⑥ホームページや学年便りなどで、授業の様子を載せて保護者へ積極的に発信をする。	【達成状況】 目標を達成 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>96.7</td><td>96.6</td><td>88.5</td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td>99.2</td><td>100.0</td><td>90.6</td><td></td></tr></table> 今年度も昨年度に引き続き肯定的回答割合は 90%を超え、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 引き続き、学びのスタイルの確立を目指したり、ホームページや学年便りなどで、授業の様子を載せて保護者へ積極的に発信をしたりする。		児童	教職員	保護者	地域	R6	96.7	96.6	88.5		R5	99.2	100.0	90.6	
	児童	教職員	保護者	地域														
R6	96.7	96.6	88.5															
R5	99.2	100.0	90.6															
4ー(2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①専門スタッフを効果的に活用するために、学校内外のコミュニケーション環境の「チーム桜」を意識した活動を継続することに努める。 ・総合的な連絡調整の実施 ・各業務担当教職員との綿密な打ち合わせの実施 ・各スタッフによる関係職員への積極的な情報提供の推進 ②職員会議や打合せの実施を活用し、専門スタッフとの情報交換を密にする。	【達成状況】 目標を達成 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>96.6</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td></td><td>100.0</td><td></td><td></td></tr></table> 教職員の肯定的回答が、昨年度に引き続き肯定的回答割合は 90%を超え、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 引き続き、連絡を密にし、チーム桜を意識し、協力して業務に取り組む。		児童	教職員	保護者	地域	R6		96.6			R5		100.0		
	児童	教職員	保護者	地域														
R6		96.6																
R5		100.0																

4ー(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 勤務時間や業務内容の違いを相互に理解しながら協働体制を構築する。 ② 学校スタッフの業務内容を整理したり、行事や文書処理などにおいて具体的な業務の削減をしたりする。 ③ 多様な専門性を有する学校スタッフと連携し、効率的・効果的な教育活動の推進を図る。 ④ 職員自らがライフワークバランスを意識して勤務することができるよう、互いに声を掛け合う。 ⑤ リフレッシュデーの持ち方や方法について検討する。	B 【達成状況】 目標を達成 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>96.6</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td></td><td>92.3</td><td></td><td></td></tr></table> 教職員の肯定的回答割合が 90%を超える高い割合であった。 【次年度の方針】 簡略化等により業務の効率化が図られた。次年度も業務改善に努めるとともに、多様な専門性を有する学校スタッフと連携し、教育活動の効率化を図る。また、各個人が学習情報システムを効率よく活用する。		児童	教職員	保護者	地域	R6		96.6			R5		92.3		
	児童	教職員	保護者	地域														
R6		96.6																
R5		92.3																
5ー(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上	① 保護者や地域住民に対して「各種たより」やホームページで、教育活動の情報を発信・提供する。 ② 6 学年の学年だよりでは、乗り入れ授業の様子や児童の感想などを載せ、保護者への啓発を図る。 ③ 小中合同のあいさつ運動や中学校訪問の機会を通して、児童生徒相互の交流を推進する。 ④ 食育だよりや図書館だよりなど、地域学校園で行っている取り組みについて、より保護者に理解が得られるよう、紙面の構成を工夫する。	B 【達成状況】 目標を達成 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>91.4</td><td>96.6</td><td>88.6</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R5</td><td>86.0</td><td>96.2</td><td>86.8</td><td>100.0</td></tr></table> 数値目標を上回り目標達成した。児童の肯定的回答割合は、昨年度より 5.4%上回った。 【次年度の方針】 引き続き、ホームページや各種便りで発信することで、小中一貫の教育活動の情報を提供し、保護者や地域の理解を深める。また、乗り入れ授業や合同あいさつ運動・中学校訪問などで、中学校との交流を深める。さらに、地域学校園内の学校との連携を強くし、取組の実施時期や、その方法について検討していく。		児童	教職員	保護者	地域	R6	91.4	96.6	88.6	100.0	R5	86.0	96.2	86.8	100.0
	児童	教職員	保護者	地域														
R6	91.4	96.6	88.6	100.0														
R5	86.0	96.2	86.8	100.0														
5ー(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5ー(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 学校の公開や情報の積極的な発信・提供を行い、家庭・地域・企業等との連携・協力を推進する。 ・ オープンスクール等による学校公開の推進（幼保小連携を含む） ・ 学校便り、学年便り、保健便り、食育便り、図書館便り等の工夫と定期的発行 ② 地域団体・地域人材の積極的な活用を通して、地域と共に歩む魅力ある学校づくりを推進する。 ・ 生活科や総合的な学習の時間における体験活動を中心とした交流活動の推進 ・ 地域教材開発の推進・見直し ③ 外部連携を例年通り計画し、社会状況に応じて臨機応変に実施・変更を行う。	B 【達成状況】 目標を達成 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>91.6</td><td>100.0</td><td>92.1</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R5</td><td>89.4</td><td>100.0</td><td>90.7</td><td>100.0</td></tr></table> 昨年度に引き続き今年度も数値目標を上回った。また、今年度は肯定的回答割合が 90%を超える高い割合であった 【次年度の方針】 引き続き、さくらライブ等を公開するなどして、学校の様子を地域に積極的に発信する。また、企業や博物館による出前授業や校外学習等、様々な外部機関と連携した教育活動を積極的に行っていく。		児童	教職員	保護者	地域	R6	91.6	100.0	92.1	100.0	R5	89.4	100.0	90.7	100.0
	児童	教職員	保護者	地域														
R6	91.6	100.0	92.1	100.0														
R5	89.4	100.0	90.7	100.0														

6ー(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。	①児童と教師の協働による日常の清掃活動等を充実させ、環境の美化に努める。 ・縦割り班清掃活動の充実と清掃強化週間の有効活用 ・児童会活動や奉仕活動の充実 ・地域協議会と連携した緑化活動の推進 ②安全点検結果に基づく、修繕補修を迅速に行い、安全な学習環境づくりを推進する。 ・安全点検の確実な実施 ・学校業務員や機動班との連携による早期発見・早期対応	B	【達成状況】目標を達成	<table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>100.0</td><td>92.9</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R5</td><td></td><td>100.0</td><td>94.8</td><td>88.9</td></tr></table> 保護者・地域住民の肯定的回答割合がともに肯定的回答割合は 90%を超え、数値目標を達成した。中でも、地域住民の肯定的回答は昨年度と比べて 11.1 ポイント上回った。 【次年度の方針】 環境委員会などと連携し、校内環境の美化に努める。また、安全点検の結果をもとに早期対応に努める。		児童	教職員	保護者	地域	R6		100.0	92.9	100.0	R5		100.0	94.8	88.9
		児童		教職員	保護者	地域														
R6		100.0	92.9	100.0																
R5		100.0	94.8	88.9																
6ー(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。	①情報教育を推進するために、ICT機器の利用環境整備に努める。 ・1人1台端末の活用 ・ICT機器の集中管理の徹底 ②図書資料を有効に活用した学びを充実させるために、学校図書館の整備を推進する。 ・教育課程に即した図書選定の実践 ③市立図書館と連携した希望図書の有効活用	B	【達成状況】目標を達成	<table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>100.0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td></td><td>100.0</td><td></td><td></td></tr></table> 教職員の肯定的回答割合が、昨年度に続き今年度も大きく上回った。 【次年度の方針】 十分活用できているので継続する。また、引き続き「分かる授業」を目指し授業改善に努める。		児童	教職員	保護者	地域	R6		100.0			R5		100.0		
	児童	教職員		保護者	地域															
R6		100.0																		
R5		100.0																		
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。	①児童会縦割り班のあいさつ運動を定期的に展開し、和やかな人間関係・雰囲気を作る。 ②あいさつ当番制度やほめほめ（あいさつ）カードの活用により、習慣化を図る。 ③あいさつ運動を継続し、活気ある学校の雰囲気をつくっていくとともに、学年に応じた挨拶の仕方について指導する。	B	【達成状況】目標を達成	<table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>91.9</td><td>96.6</td><td>88.4</td><td>92.3</td></tr><tr><td>R5</td><td>94.9</td><td>96.2</td><td>87.9</td><td>100.0</td></tr></table> 教職員・保護者の肯定的回答割合が、昨年度と同等であり、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 引き続き、児童主体のあいさつ運動やほめほめカードの活用をし、より一層定着を図る。また、家庭や地域においても、あいさつができるよう、指導していく。		児童	教職員	保護者	地域	R6	91.9	96.6	88.4	92.3	R5	94.9	96.2	87.9	100.0
		児童		教職員	保護者	地域														
R6	91.9	96.6	88.4	92.3																
R5	94.9	96.2	87.9	100.0																
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。	①適切な助言・称賛・励ましによる基本的生活習慣の確立と徹底を図る。 ②「桜のよい子」に基づいた月ごとの具体的生活目標を設定し、基本的生活習慣を身に付けさせる。	B	【達成状況】目標を達成	<table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>94.1</td><td>93.1</td><td>93.1</td><td>92.3</td></tr><tr><td>R5</td><td>94.9</td><td>100.0</td><td>92.3</td><td>100.0</td></tr></table> 教職員の肯定的回答割合は 90%を超え、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 校内のきまりだけでなく、校外での過ごし方や遊び方を指導していく。また、ほめほめカードを活用して、児童の行いを評価していく。		児童	教職員	保護者	地域	R6	94.1	93.1	93.1	92.3	R5	94.9	100.0	92.3	100.0
	児童	教職員		保護者	地域															
R6	94.1	93.1	93.1	92.3																
R5	94.9	100.0	92.3	100.0																

B3 児童は、互いの良さを認め、協力し合って生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、互いの良さを認め、協力し合って生活している。」 ⇒児童肯定的回答 90%以上	①共に支えあう望ましい学級集団づくりを目指す活動を継続していく。 ・縦割り班活動の充実(清掃・共遊・児童会活動等) ・特別支援学級と通常の学級との交流 ・異学年交流(クラブ活動、委員会) ②自他の違いを理解し、尊重し合い支えあう望ましい学級集団づくりを目指す活動の場を設定する。 ・よさを見つけ認め合う活動「ほめほめカード」「さくらカード」 ・一人一人の良さを認め合えるような学年・学級経営	【達成状況】 目標を達成 <table><tr><th></th><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>R6</td><td>91.2</td><td>100.0</td><td>95.1</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R5</td><td>93.7</td><td>100.0</td><td>92.0</td><td>100.0</td></tr></table> 児童の肯定的回答割合は昨年度に引き続き 90%を超え、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 共に支え合う望ましい学級集団作りに継続して取り組んでいく。また、引き続き、「ほめほめカード」の取組を推進するとともに、縦割り班活動での異学年交流を進め、互いに認め合う雰囲気の醸成に努める。		児童	教職員	保護者	地域	R6	91.2	100.0	95.1	100.0	R5	93.7	100.0	92.0	100.0
	児童	教職員	保護者	地域													
R6	91.2	100.0	95.1	100.0													
R5	93.7	100.0	92.0	100.0													
B4 学校は、頑張る学校プロジェクトとして、創意工夫ある教育活動を実施し、活気あふれる特色ある学校づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、頑張る学校プロジェクトとして、創意工夫ある教育活動を実施し、活気あふれる特色ある学校づくりに努めている。」 ⇒保護者肯定的回答 85%以上	①「学校だより」等で保護者等に交付金を活用した事業目的や内容を周知する。 ②頑張る学校プロジェクトの事業後、実施内容を便りやHP等で発信する。 ③外部人材と連携を図り教育活動を推進していく。	【達成状況】 目標を達成 <table><tr><th></th><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>96.6</td><td>90.6</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R5</td><td></td><td>100.0</td><td>92.4</td><td>100.0</td></tr></table> 保護者の肯定的回答割合は昨年度に引き続き 90%を超え、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 HP やさくら連絡網でのメール配信を活用したことで、保護者や地域の学校の教育活動についての理解が高まった。次年度も継続して積極的に情報発信をしていく。		児童	教職員	保護者	地域	R6		96.6	90.6	100.0	R5		100.0	92.4	100.0
	児童	教職員	保護者	地域													
R6		96.6	90.6	100.0													
R5		100.0	92.4	100.0													

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

（学校運営部会）

- ・今年度の学校運営の重点目標である「児童一人一人のもつよさや可能性を認め伸ばし、未来を拓くたくましい人間力の育成」を目指して、校務分掌の適切な配置と、業務の効率化に努めたことにより、児童と向き合う時間を確保することができた。また、スクールカウンセラーやICT支援員等専門性を有する学校スタッフと連携できた。
- 地域学校園内スクールカウンセラー派遣事業をととして、小学校から中学校への情報共有・提供を行うことにより対応の充実が図れた。
- ・異学年による縦割り班での活動や「ほめほめカード」の積極的な導入、各活動の振り返りを充実させることにより、一人一人の自己肯定感が高まったり、児童が互いに認め合ったりする雰囲気がつくられ、「一人一人のより良い未来への学校づくり」につながった。
- ・「学校・家庭・地域社会との連携、地域とともにある学校」として、今年度も保護者の学校行事への参加や地域や企業との教育力を活用した特色ある教育活動を展開できた。また、学校の教育活動については、学校だよりを始め各種便りやHP等で積極的に情報提供し、保護者や地域社会の理解を深めることができた。
- ・出退勤のミライム入力への声掛けやリフレッシュデー・リフレッシュウィーク等の声掛け等や行事等の見直しを積極的に行うことにより、勤務時間の意識化や業務の効率化を図ることができた。

（学習指導部会）

- ・「授業は はっきり！じっくり！すっきり！」「さくらの学び（つかう・学び合う・まとめる・振り返る）」のスタイルを授業展開時に行うことで児童の学習意欲が実感できた。
- ・児童の実態や理解の程度に応じた学習形態や指導法の工夫・他者と協働して課題に取り組む場の設定に努め、基礎的・基本的な学力の確実な定着を図ってきたことにより、学力調査等における学力の伸びが見られた。
- ・英語による校内掲示の工夫やALTとの連携した授業展開等を行うことができた。しかし、児童と教職員の「英語を使ってコミュニケーションしている」の回答に差が見られた。
- ・校外学習や体験学習を推進したことにより、宇都宮学についての理解が高まった。また、「子どもたちの？をふくらますこと」「本物から学ぶこと」を大切に学習を取り入れることで学ぶ楽しさを実感出来た。

（児童指導部会）

- ・「心豊かでたくましく生きる児童の育成」を目指して、「桜のよい子」に基づいた指導や児童一人一人の良さを認め励ます活動を設定したことにより、きまりやマナーを守って学校生活を送ることができた。
- ・特別な支援や配慮を要する児童について、今年度も全教職員で共通理解・連携を図りながら対応している成果が表れていた。
- ・学習活動や行事等において一人一人が活躍する場を設定し、児童の自己有用感や達成感・成就感を高めることができた。

た。

・豊かな心を育てるために、全職員でほめほめカードを活用したり、子どもたちの自主的な活動を取り入れられるよう日程を工夫したりして、児童の自己肯定感を高めることができた。また、地域や企業と連携して、充実した教育活動を実施できた。

○地域学校園のあいさつ運動や乗り入れ授業、中学校訪問等を通して、挨拶や中学校進学への意識が高まった。また、小学校と中学校の連携の充実が図れた。

・いじめゼロ集会や人権週間における全児童による標語作成により啓発を図れた。また、いじめ防止アンケートの実施等、教育相談による児童との会話等によって、早期対応が取れた。しかし、児童と保護者の「いじめ対応に熱心に取り組んでいる」の回答に差が見られた。

（健康安全部会）

・今年度も、引き渡し訓練において保護者と共に訓練を実施することができた。また地震・火災を想定した避難訓練では、消防署の方を招いて訓練を実施することができた。また、緊急時放送が使用不可になる等より実践に近い訓練となった。実施方法を工夫したり、ICTを活用したりしたことにより、児童にとっても職員にとっても「命を守る大切さ」を実感できた。

・今年度も、食育については、栄養士や養護教諭を中心にICT機器を取り入れながら効果的に実施することができた。特に、トマト給食等地産地消に力を入れ食の大切さを発信した。また、食育推進・学校保健委員会を通して、学校医や保護者に本校の食育や健康への取組を周知・啓発できた。

・社会科や学級活動、総合的な学習の時間等において持続可能な開発のための教育を意識した学習内容を計画したり、環境委員会を中心とした牛乳パックリサイクル活動を行ったりする等、環境を意識することができた。しかし、児童と教職員の「持続可能な社会に関心をもっている」の回答に差が見られた。

7 学校関係者評価

・子どもたちが計画した児童集会「おばけウォークラリー」は異学年による縦割り班による活動であり、普段見られない様子が見られて良かった。また、1年生から6年生の仲がとても良かった。

・地域での挨拶に差があるように思う。地域との活動がもっと増え、子どもたちの活動がもっと地域に広がれば挨拶も広がるのではないかとと思う。

・放課後わくわく教室では、子どもたちの元気な姿が見られる。トラブルも一つの経験としていいのではないかと思う。

・不登校やいじめについて様子を見ると、子どもたちは安心して登校しているように思う。

・地域の力をもっと活用しても良いのではないか。ボランティア活動に大いに協力する。

・肯定的回答が低い分野はなぜなのであるか。生涯学習センターで行うサマースクール（講座）では、他学校とのつながりができている。

・いじめの認識について、保護者が感じていることを詳しく聞き取ることをしても良いのではないか。

・児童は約97%と高いが、保護者のいじめについての項目が低い。いじめは自殺にも繋がるので慎重に対応しても良いのではないか。

・育成会においての「ドッチビー」「スキー教室」等、子どもたちと関わるが、参加している子どもたちは日頃のストレスを発散しているようで元気である。

・読み聞かせを熱心に聴き楽しそうである。

・子どもたちの登下校の見守りをしているが、元気にしている。

・「持続可能な社会」への関心において教職員側と児童側の差があるが、児童の関心を高めるために図書資料等を活用する等、できることから取り組んでいけば良いのではないか。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

今年度行った取組に改善・工夫を加え次年度へつなげる。

・児童の自己肯定感や自己有用感が高まる教育活動の充実にも努める。

①一人一人の個性や能力を把握し、基礎・基本の確実な定着及び「分かる授業」の展開を図る。そして、達成感や成就感を味わい自己肯定感を実感できる活動を意図的に設定していき、目標に向かい粘り強く取り組む気持ちを高めていきたい。

②児童が意欲をもって取り組める学習課題を設定し、試したり、考えを表したり、思いを伝えあったりするように学習活動や学びを深める「さくらの学び（つかむ、学び合う、まとめる、ふりかえる）」を基に、児童が意欲をもって取り組める授業を展開する。更に個に応じた支援、指導、評価を行い、児童の学力向上に努めていく。

③児童がもっている力を発揮できるように、一人一人に寄り添いながら温かくきめ細かな指導を行う。また、できる喜びを実感できるよう称賛の言葉を掛けたり、児童とともに達成感や成就感を共有したりし、児童のより良い成長を支える関わりに努める。更に悩み等を早期に見出し、児童がいきいきと学校生活が送れるよう努める。

④特別活動を通し、「学校行事」「児童会活動」「学級活動」等、児童一人一人が活躍できる場や「縦割り班活動」等、異学年によるふれあいの機会を設定して、自己肯定感や自己有用感を高める教育活動を行う。そして、児童主体の活動を「任せ、やり遂げさせる」姿勢で支援し活気ある学校づくりを目指していく。

⑤児童が目的意識をもち英語で話したいと思えるような教材の工夫や授業展開を行う。

⑥特別な支援を必要とする児童への対応として、今後も週1回打合せ後の児童指導対策会議での共有・連携を行って実態に応じた対応を行うとともに、特別支援教育の視点を大切にしたい指導を行っていく。

・地域と家庭、学校が連携を図りながら、学校教育への理解を深めていただき、学校運営の充実にも努める。

①今後も学校教育活動の理解や協力をいただけるよう教育活動・授業の公開や各種便りやHP等による情報発信を行

う。

- ②「さくら地区クリーン活動」等地域の教育力を生かした交流活動を取り入れる教育活動の実践を行う。
- ③地域の人材や教育力を活かし、児童に「将来の夢」を描くきっかけをもたせ未来への希望へとつながられるような活動を実践していく。
- ④地域協議会の組織（学校支援ボランティア）や桜地区まちづくり協議会等と連携し、地域の人材を積極的に教育活動に取り込み、地域の教育力を生かした学校づくりを推進する。
- ⑤社会科や総合的な学習の時間を中心に、宇都宮の良さを実感できるような授業を行うとともに、校外学習等で宇都宮の良さに触れる機会を設定する。
- ・校内外でのあいさつ運動の習慣化と地域の方々との交流の充実に努める。
 - ①気持ちの良い挨拶を職員自ら率先励行する姿勢をもち、児童の見本となるようにする。
 - ②児童会を中心にあいさつ運動を行う等、今年度の取組を維持しながら、「桜のよい子」「ほめほめカード」等を活用し基本的生活習の指導を徹底するとともに、気持ちの良い挨拶をした児童を称賛していく。
 - ③社会科・生活科・総合的な学習の時間や児童集会「感謝の会」の活動や交流を通して、自分は地域の一員であることや地域の方々に支えていただいていることを実感できるようにする。
 - ④桜地区まちづくり協議会との連携を図り、学校と地域で挨拶の輪を広げるようにする。
- 「小中一貫」「地域学校園」等の実践を積極的に情報発信に努める。
 - ①小中で連携して行っている「あいさつ運動」や地域学校園で行っている教育活動の取組や実践を学校だよりや学年だより、HP等で発信する。
 - ②今後も地域学校園で連携を図ったり、全職員で「小中9年間の学びを支える」という意識を共有したりしながら、児童の資質・能力を高めていく。
- ・安心安全で持続可能な社会を目指した学校づくりに努める。
 - ①安全点検の充実と学校業務機動班との連携に努め、安全安心な学校づくりのための取組を保護者や地域に発信する。
 - ②教職員自ら持続可能な開発のための教育＝E S Dについて意識的に理解を深め、持続可能な社会について学習内容に関連付けながら日々の生活の中でも指導していく。
 - ③今後も引き続き、地域の教育力と連携し、全職員「チーム桜」で持続可能な勤務環境づくりや児童主体の活気ある学校づくりに努めていく。